大学生のパーソナルスペースは1か月で縮まるの? ^[1]

○宮下達哉¹・山村豊²・岡隆³

(¹ 日本大学大学院文学研究科・² 帝京大学教育学部・³ 日本大学文理学部)

キーワード: パーソナルスペース, 大学生, 親密性

Do personal space of undergraduates shrink in one month?

Tatsuya MIYASHITA¹, Yutaka YAMAMURA² and Takashi OKA³

(¹ Graduate School of Literature and Social Sciences, Nihon Univ., ² The Faculty of Education, Teikyo Univ., ³ College of Humanities and Sciences, Nihon Univ.)

Key Words: Personal space, Undergraduates, Intimacy

目 的

個人が暗黙のうちに自分の空間であるとみなす物理的空間を、パーソナルスペース (Personal space; 以下, PS) という (Sommer, 1959)。この PS に他者がむやみに侵入すると、不快感が引き起こされる。また、田中 (1973) は、対人距離を規定する要因の一つとして向性の違いを報告している。

一方、Gifford (1982) は、PS は親しい人に対して小さくなると指摘している。従って、PS は他者との関係性によって変化する空間だと考えられている (伏田・長野, 2014)。

本研究では、大学生における他者との関係性に着目をする。具体的には、大学の授業が始まって間もない4月の時点での大学生の PS と、その1か月後の大学生の PS を比較する。4月の時点では、授業が始まって間もないため、他者との関係性が親密だとは考え難い。他者との関係性が親密であるほど対人距離は小さくなるので (Little, 1965)、1か月前より1か月後の方が大学生の PS は小さくなると予測される。

以上のことより本研究では、前後左右の4方向から PS を測定し、他者との親密性が大学生の PS を規定するか検討することを目的とする。結果の予測は、1か月後の方が1か月前よりも大学生の PS は小さくなるとする。

方 法

実験時期 本実験は、2017年4月とその1か月後の5月の計2回行われた。

実験参加者 大学生39名のうち、1か月前の群が20名 (男性13名, 女性7名, 平均年齢19.80歳, $SD = 0.75$ 歳), 1か月後の群が19名 (男性12名, 女性7名, 平均年齢20.58歳, $SD = 1.31$ 歳) であった。

実験材料 PS を実測するためのメジャー、実験参加者が立つ位置を一定にするスタンドポイント板を使用した。

質問紙 向性を測定するため、並川・谷・脇田・熊谷・中根・野口 (2012) の Big Five 尺度短縮版を用いた。本尺度の構成は全29項目であり、「外向性」を測定する項目は6項目であった。回答方法は7件法であった。

手続き 授業時間に行われた実験であった。始めに、実験参加者がスタンドポイント板に立ち、対象者 (接近する人) が前後左右5m離れたところから実験参加者に近づくように、対象者の接近を開始する地点を測定した。次に、対象者が実験参加者に対して5m離れたところから、ゆっくりと接近した。対象者が実験参加者に対してそれ以上近づくと不自然で気になると感じるところで、実験参加者が「ストップ」をかけた。測定では、スタンドポイント板と対象者のつま先との距離を測り記録した。

PS の測定後、Big Five 尺度短縮版へ回答を求めた。

結 果

まず、Big Five 尺度短縮版の「外向性」の合計得点に基づいて、中央値で群分けを行った。1か月前群および1か月後

群ごとに、「外向性」の合計得点が中央値より高かった者を外向性群, 低かった者を内向性群とした。また、1か月前群および1か月後群の PS の前後左右4方向の距離の平均値を、外向性群および内向性群ごとに算出した。

次に、期間と外向性を独立変数、PS を従属変数として、2 (期間: 1か月前, 1か月後) $\times$ 2 (外向性: 外向性群, 内向性群) の2要因被験者間計画の分散分析を行った (Figure1)。その結果、期間の主効果が認められた ($F(1,35) = 4.56, p = .04, \eta^2_p = .12$)。外向性の主効果および交互作用は認められなかった (順に, $F(1,35) = 0.78, n.s.; F(1,35) = 0.01, n.s.$)。

Figure1 分散分析の結果 (N = 39)。

考 察

実験の結果、大学生の PS は1か月後の方が1か月前よりも小さくなることが示され、本研究の予測を支持する結果となった。この結果より、大学生の他者との関係性は、1か月ほどで親密になることが示唆された。

また、分散分析の結果、外向性の主効果が認められなかったことから、向性によって両群の大学生の PS に差が生じたとは考え難い。向性の違いが対人距離を規定することが先行研究 (田中, 1973) より指摘されているが、本研究は向性と独立して、1か月という期間が PS に影響を及ぼしたと考えられる。このことより、大学生の他者との関係性は、他者と過ごす期間が重要であることが示唆された。

[1]. 本研究の一部は、JSPS 科研費 JP16H03734 (研究代表者 岡隆) の助成を受けたものです。